

# 宮柁二記念館だより

2011.10.31

第 36 号

発行 宮柁二記念館

TEL・FAX

025-794-3800



## 平成23年度企画展示「宮柁二 その埋没の姿勢」開催中

### 宮柁二を語るうえでの キーワード「埋没」

平成二十三年度の企画展示は「宮柁二 埋没の姿勢」というテーマで行っています。

宮柁二は生涯、一人の市民としての視点を大切にしています。そして、コスモス短歌会をはじめ、新聞歌壇などをおして短歌の普及に努めてきました。そこには「作者の名前が残るのではなく、自由な時代を生きた人々の短歌作品が、その時代を映し出しながら将来に残っていく」そんな考え方があったのではないのでしょうか。

展示では、そんな宮柁二の生涯にそって、埋没の姿勢が伝えられる関連資料を展示しています。

北原白秋に認められた才能、戦場での短歌、コスモス短歌会の結成、晩年にいたるまでの埋没の姿勢。そしてそんな柁二を埋没させまいとする周囲の方々の応援についても紹介しています。

平成二十三年度「宮柊二」その埋没の姿勢」展

## 「埋没の姿勢」での短歌

戦後の歌壇に大きな業績を残した宮柊二は、「埋没の姿勢」を貫いて歌を作り続けました。その「埋没の姿勢」をキーワードに、今年度の企画展示では、短歌についての柊二の考え方に迫れるような、企画をしました。

◎はじめに

昭和戦後の歌壇に優れた業績をのこした宮柊二。柊二は生涯一人の市民としての立場をつらぬき、その視点を大切にしていました。短歌を作った作者の名前によって、いい歌かどうかを決めるのではなく、多くの人によって優れた短歌がたくさん作られるなかで、自分自身の作品も埋没していく、それが柊二の埋没の姿勢だったと考えています。今回の展示では、そんな柊二の人となりがかがえる資料を、生涯をたどり紹介していきます。

◎新進気鋭

柊二は長岡中学を卒業後、進学をせず家業を手伝います。その後、短歌への夢を捨てきれず、あてもなく上京。アルバイトのような仕事を転々とするなか、作品が北原白秋の目にとまり、本格的に短歌を学ぶことができました。歌人・宮柊二のスタートは苦労の中で培われたといえます。

白秋は柊二に「君で弟子をとるのは最後にする」と言って、秘書の仕事にあたえます。柊二自身も懸命に歌を学び、白秋の主宰した短歌雑誌「多磨」の創刊号では、若手の筆頭を



一人の市民としての視点を大切にした柊二の生涯をご紹介します。

飾っています。しかし、柊二は昭和十四年に突然白秋秘書を辞し、製鉄会社に入社します。「自分の才能に絶望した」と言っていますが、長男の責任を果たすために、老いた親たちを養うという決意があったとも言われています。

その年の八月、柊二のもとに召集令状が届きます。その後、中国山西省の戦場で丸四年間を一兵士として過ごしました。戦場で短歌を作る柊二に対し、白秋は第一回多磨賞を贈ります。賞状には「新進気鋭 出色なり 之を賞す」とあります。短いながらも期待と励ましのこもった、あたたかい一文でした。

### 展示資料から

「短歌雑誌」掲載  
「孤独派宣言」

「孤独派宣言」は、昭和二十四年六月の「短歌雑誌」に掲載された宮柊二の散文です。戦後、短歌や俳句に批判的な第二芸術論が出されるなか、柊二は反論をせず黙々と短歌を作り続けました。この文章はそんな柊二が初めて出した散文です。とても難解な文章として有名ですが、最後の「歌声は低くともそれは自らの歌声でなければならぬ」という一文には、当時の柊二の思いが込められているといえます。

柊二の記事の掲載された新聞や雑誌は、ほとんどがきれいにファイリングされて遺されています。これらは、当時の出版の様子をうかがえる貴重な資料となっています。



大切にファイルに保管されていた「孤独派宣言」のページ。



小千谷市在住の山本先生は、宮柁二記念館のよきアドバイザーでもあります。

テープカットと

山本清さん講演会

平成二十三年度の企画展示「宮柁二 その埋没の姿勢」展は、五月二十八日にオープニングを行いました。

テープカットのあと、小千谷市在住の歌人で、宮柁二をよく知る山本清さんから記念講演をしていただきました。「宮柁二」の作品を通して「埋没」の状況を考える“と題して、短歌作品の紹介といくつものエピソードをまじえた、貴重なお話をうかがうことができました。

◎一兵の生

柁二が戦場で作った短歌は、「多磨」をはじめ各短歌雑誌などで紹介されました。それらは、現地の生々しい様子を映し出して、衝撃的な印象を持って迎えられます。ちなみに、歌集『山西省』の後書きのなかで「これは作品ではなく記録である」と記しています。また、後に夫人となる瀧口英子氏への書簡には「私は名前などちつとも知られない、一兵士でありたい」という内容の一文があります。

おそらくは知らるるなけむ一兵の  
生きの有様をまつぶさに遂げむ

これらの思いが、有名なこの一首になったのではないのでしょうか。戦争という歴史的な出来事のなかで、短歌が「記録」として残り、その歌の作者は一兵士として埋没していくという決意。柁二の「埋没の姿勢」をかたちづくる原点と

いえると思います。

◎埋没の精神

敗戦によって日本は大きく変わりました。文学の世界では「俳句や短歌は第二の芸術である」という第二芸術論が盛んになります。これは、戦時中の内容のとぼしい戦意高揚の俳句や短歌への批判であったのかもしれない。「短歌は将来なくなってしまうかもしれない」と言われた戦後、柁二は声高に反論することもせず、地道に短歌を作り続けていきました。

そんな柁二が、『群鷄』『小紺珠』



柁二の「埋没の姿勢」を培った、魚沼の豪雪風景

『山西省』と、立て続けに三冊の歌集を出版します。どれも高い評価を受け、柁二は注目を浴び、次代を担う若手歌人として期待されることとなります。また、昭和二十四年には「孤独派宣言」という一文を発表します。これはとても難解な文章ですが、最後の一文は明瞭で、柁二の短歌への思いを明確に表現しています。

「歌声は低くとも、それは自らの歌声でなければならぬ。」

これは、戦時中の“誰かに作らされていたような、絵空事のような短歌”のことを、念頭においていたのかもしれない。

柁二は戦後もサラリーマンを続け、家族を養いながら短歌を作り続けます。そこには戦後の時代のなかで、一人の市民として自分の生を見定めようという意志があったのではないのでしょうか

埋没の歌人・米川稔  
「陣中詠定稿」

多磨短歌会で、柗二には十四歳年上の米川稔という友人がいました。四〇歳から短歌を始めましたものの、勤勉に学び、柗二が最も信頼する親友でした。

米川稔は戦争末期に南方に軍医として召集され、昭和十九年に自決。戦後、遺族のもとに「陣中詠定稿」という戦場の短歌をまとめたノートが届きます。柗二は友人の吉野秀雄と遺作をまとめ、昭和四十六年に『舗道夕映』という歌集を自费出版しました。

米川稔という歌人の生涯は埋もれ、戦争という時代を表した短歌はこれからもずっと刻まれていくものだと思います。



柗二の親友、米川稔の遺稿「陣中詠定稿」。

◎生の証明

白秋逝去から十年後の昭和二十七年に「多磨」は終刊となります。柗二の周りの若い仲間たちは、柗二が中心となって新しい短歌会を結成することを望み、昭和二十八年に「コスモス」が創刊されます。

そんなコスモスには「作者の五十音順に作品をならべる」「表紙に宮柗二主宰とは書かず、宮柗二編集と記す」などの新しい取り組みがなされ、関係者を驚かせました。これらも「埋没の姿勢」を象徴したことといえるのかもしれませんが。

三百人からスタートしたコスモス短歌会は会員を着実に増やして、三千人をこえる大きな短歌結社へと成長していきます。

◎忘瓦亭

昭和の歌壇の中心的な一人となった柗二ですが、その埋没の姿勢は変わりませんでした。昭和五十三年に出版された歌集に『忘瓦亭の歌』というものがありません。歌集の後書きでは、三鷹市の自宅に屋根をふくとき、瓦屋根にしなかつたことから「瓦を忘れた家」と表現したと書かれています。さらに次のようなくだりが続きます。

「自分の歌は玉石のうちの瓦石のようなもの、そのコンプレックスを少しは忘れてみたい。」

三千人をこえるコスモスの会員たちに歌を指導する立場にありながら、自分の短歌は「玉石」ではなく「瓦石」のようだ、と言って

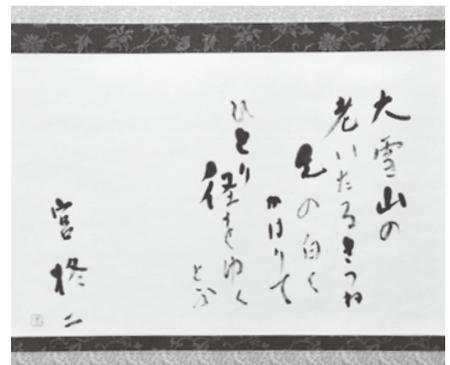
いるのです。

しかし、柗二自身が埋没を志向しながらも、周囲の人たちは柗二を埋没させることはしませんでした。作者が埋没しようとしても、それを埋没させまいとする人たちがいる。それこそが、将来まで残る短歌を生み出す力になるのではないのでしょうか。昭和の時代を真摯に映し出した柗二の作品は、これからも大切にされていくことでしょう。

(終)



柗二を中心に成長していったコスモス短歌会の創刊号



大雪山の老いたる狐毛の白く変りてひとり徑を行くとふ

# 第十七回宮柵二記念館全国短歌大会 八、三五八首の応募

第十七回全国短歌大会では、これまでに全国から総計八、三五八首をお寄せいただき、選者の御供平佑さん、水島晴子さんから選歌をいただいております。短歌大会表彰式は十一月二十七日(日)に堀之内公民館で行われます。

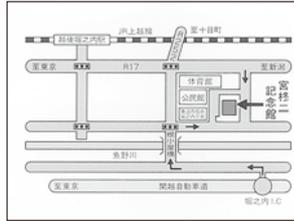
短歌大会 応募状況

区 分	応募作品数
一般の部	798首
ジュニアの部	7,560首
総 計	8,358首

(※9月10日応募締切時の数値)

## 第17回 宮柵二記念館全国短歌大会表彰式

- ◎日 時 平成23年11月27日(日)  
12:00~15:00
- ◎会 場 魚沼市堀之内公民館 大ホール  
※宮柵二記念館隣りの施設です。
- ◎内 容 ①選者講評  
選者先生から高得点者の作品の選評をいただきます。  
②表彰式  
特別賞・秀逸の方々の表彰を行います。
- ◎交 通 [自動車] 関越自動車道 堀之内IC 3分  
※堀之内公民館前に駐車できます。  
[鉄 道] 上越線越後堀之内駅  
車で3分・徒歩15分
- ◎その他 宮柵二記念館では特別賞受賞者の短歌色紙を展示します。



※どなたでも入場いただけます。大勢の皆様のお越しをお待ちしております。



みずしま はる こ  
水島晴子さん

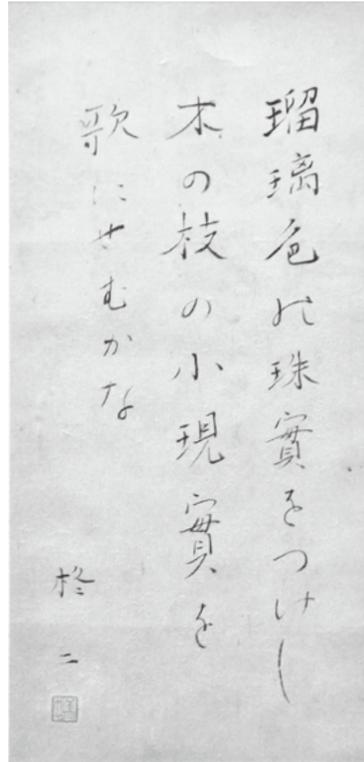
1935年(昭和10年)、大阪府豊中市に生まれる。津田塾大学英文学科卒業。1954年「コスモス短歌会」入会、宮柵二、宮英子に師事。1968年、第15回コスモス賞、82年、第4回評論賞を受賞。1970年から1984年までコスモス誌上の「宮柵二作品研究」に執筆メンバーとして参加。東宝読売カルチャー、JTBカルチャー講座、守口市公民館講座等を担当(2004年まで)歌集『天二上』『虹の名所』。現在、コスモス選者、現代歌人協会会員。



み とも へい きち  
御供平佑さん

1944年(昭和19年)、群馬県藤岡市の農家三男に生まれる。小学校から中学校にかけて、学業よりも読書に興味をもち、高校まで文学書を中心とした読書三昧に過ごす。新幹線の運転士を目指し旧国鉄に入社するが、山手線田端駅に配属。鉄道公安職員にて駅頭の犯罪捜査に従事。国鉄解体後、裁判所事務官にて定年。1962年、奥村晃作氏の「紫蘇の実」入会、1963年「国民文学」入会。松村英一、千代国一に師事。1966年、同人。現在、選者、編集人。歌集『河岸段丘』『車站』『冬の稲妻』『神流川』。歌書『短歌推敲のポイント』など。『神流川』で日本歌人クラブ賞。日本歌人クラブ中央幹事を経て本部参与。現代歌人協会会員、埼玉県歌人会副会長。国民文化祭短歌部門選者等歴任。

## 短歌大会選者ご紹介



瑠璃色の珠寶をつけし  
木の枝の小現実を  
歌にせむかな 柊二

## 宮柊二記念館収蔵資料紹介 NO. 36

昭和23年に発表されたこの短歌は、戦後の作品をまとめた歌集『小紺珠』の、タイトルのもとになっています。「瑠璃色の珠寶」とはムラサキシキブの実のこと。自分の周りの小さな現実をじっくり見届けたいという柊二の戦後の決意がうかがえます。

### 中越大震災復興義援金 各事業を終了しました

平成十六年十月二十三日に発生した中越大震災では、宮柊二記念館も大きな被害に見舞われ、その復興に際して、コスモス短歌会をはじめ全国の皆様より多額の義援金を賜りました。

宮柊二記念館では、友の会会員を中心に震災復興の事業に取り組んでまいりましたが、平成二十二年度の「宮柊二ふるさとの歌写真真集」の発刊をもって終了させていただきました。

事業の終了にあたって、これまでにご支援いただいた皆様に、深く御礼申し上げます。



◎中越大震災復興義援金 三七四円  
総額 五,二五二,二一五円

#### ◎主な事業内容

- ・宮柊二墓地階段修繕事業
- ・宮柊二関連資料購入・整備等
- ・歌集「青い春のかげら」出版事業
- ・宮柊二歌碑建立事業
- ・宮柊二ふるさとの歌写真真集発刊事業

※「宮柊二ふるさとの歌写真真集」は宮柊二記念館で販売中です。

#### お知らせ

宮柊二記念館は来年度、開館二〇周年を迎えます。現在、記念の取り組みについて検討をはじめています。

「宮柊二記念館友の会」では会員を募集しています。年会費は1,000円です。詳しいことはお問い合わせください。

宮柊二記念館だより 第36号

発行 2011. 10. 30

問合せ 宮柊二記念館 (〒949-7413 新潟県魚沼市堀之内117-6)

TEL・FAX 025-794-3800

メール miya-museum@city.uonuma.niigata.jp

ホームページ

http://www.city.uonuma.niigata.jp/miyashuji